

令和3年度 周南市男女共同参画審議会(意見のまとめ)

1 審議会期間 令和4年2月10日(木)～2月28日(月)

2 参加委員

委員 (17名)	呉会長	福田副会長	柏倉委員	田中委員	船井委員	米田委員
	三浦委員	仁志委員	御園生委員	伊藤委員	丸山委員	酒井委員
	近間委員	富永委員	中本委員	毎田委員	松下委員	

- 3 事務局説明 (1) 令和2年度推進状況及び施策の実施状況について
(2) 令和3年度の取組状況について
(3) 今後の推進施策について
(4) その他意見
(5) まとめ

4 議題

(1) 令和2年度男女共同参画の推進状況及び施策の実施状況(報告書)に対する
ご意見・ご感想

委員	<p>周南市の男女共同参画基本計画の推進内容が分かりやすくまとめられており、推進の現状と課題もよく反映されている参考価値の高い報告書だと思う。コロナ禍の中でもほとんどの項目において目標値へ着実に近づいているということは、精力的な推進活動の成果が表れつつあると言えるだろう。</p> <p>とはいえ、「働く場における男女共同参画の推進」(重点項目3)において、やや控えめの推進目標(R2と今後ともにB)が多いように見受けられる。市全体の男女共同参画の推進は、産業界のインボルブメント、産業界の指標の把握も非常に重要ではないかと思う。</p>
委員	<p>コロナが感染拡大している状況にもかかわらず、よく活動できていると感じた。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none">・周南市は父子家庭が増えているというデータがあがっているが、原因はあるのだろうか。・すまいるプランP26にあげられている3つの基本目標は、アンケート結果もふまえられており、いずれも重要である。 <p>職場や社会のしくみづくり、そしてそのために必要となる意識・人づくりについて、啓発活動を充実させ、さらに積極的な施策が望まれる。</p>

委員	<p>また、DVやハラスメントは重要な人権問題にもあたり、人権教育課の施策もふまえ、防止のための取組や相談しやすい環境づくりが重要になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指標の達成状況から、施策が概ね順調に進められていることが分かる。 ・達成状況が△や×の項目のうち、コロナ禍の影響によると考えられるものを除くと、課題が見えてくる。
委員	<p>良くまとめられていると思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・重点項目3「働く場における男女共同参画の推進」において、育児と仕事の両立が図れる支援制度の充実がさらに望まれる。 ・高齢化が進んでおり、第一次産業従事者への取組の目標値に対する現状値の割合が低い項目が多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、出来る限りの取組をしていただいた。 ・それぞれの担当課で、それぞれ事業をすすめられて、すごいと思う。それを、より分かりやすく、簡潔に、周南市全体の取組として、市民の皆さんに知ってもらえればなおよい。
委員	<p>コロナ禍でいろいろな活動が休止・縮小されている状況下で、デートDV防止講座の受講者が平成30年度から大きく伸び目標値を達成できたことは、若い世代からDVに対する認識を高め、成長してから大きな抑止効果をもたらすこととなると思う。どのようなことが相手の人格を無視し、人としてしてはいけないことかに気づく機会として大切な啓発活動であると思う。</p> <p>「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべての両立を理想とする割合が高いのに、すべての両立ができている人は少数派という点が気になる。理想に近づけるには何が足りないのだろうか。</p> <p>市男性職員の育児休暇取得率を上げていく取組は、まずは行政からアクションを起こすこととして大変必要なことであると思うが、少子高齢化社会下で労働力不足は深刻さを増す中、実際にそれが可能な職場が果たしてどれだけあるかが非常に疑問である。</p> <p>女性労働率がM字カーブを描くのはある意味必要不可欠なことであるし、報告書にあるとおり魅力ある雇用機会やライフスタイルに応じた柔軟で多様な働き方ができる職場環境づくりの推進が大きな課題だと思う。</p>

委員	<p>今回の報告書は、注釈が各項目の下段にあるので以前の末尾ページにまとめてあるより、わかりやすく理解しやすかったと思う。</p> <p>コロナ禍で制約の多い中、各施策の実施もままならなかったと思う。そんな中、3つの基本目標と11の重点項目について各担当課毎に着実な実施をされていることに敬意を表したい。</p> <p>但し、厳しく言えば「〇〇〇をやりました」式の実績をPRして終わりの内容もあり、この点に一工夫あれば良いと思う。</p> <p>例えば認知症サポーター養成者にその後どのようなフォローがあり役立てた事例にはどのようなものがある、等。</p>
委員	<p>3つの基本目標を杭にして、その中での重点目標もわかりやすく示されており、なおかつ目標指標の達成状況が数値で表されてよくまとめてあると思う。</p> <p>子育て支援や学校教育についての支援が充実していると思う。</p>
委員	<p>理解している人が多くなって良いと思う。</p>
委員	<p>コロナ禍で対面での講演会や講座を行うことは大変だったのではないと思うが、多くの活動を行っておられ、地道に取り組むことで周知されると思う。</p>
委員	<p>概ね、A判定の事業が多いようだが、事業参加者からのフィードバックを今後に活かしてほしいということと、C判定のコロナウイルス拡大防止のために実施できなかった事業については、オンラインでの実施も考えてほしいと思う。</p> <p>また、DV被害者も含め、犯罪被害者の保護は重要であるため、犯罪被害者保護条例の制定等も考えるべきかと思う。</p> <p>市営住宅の当選確率2倍ではなく100%にするとか。</p>
委員	<p>30年近く男女共同参画の組織や研修会に参加・参画しているが、世の中の意識は随分変化してきていると感じる。アンケート結果や具体的数値からも見て取れる。そのアンケートの世代別数値や男女別（世代別男女）の数値で表されていると、現在の世代別・男女別の意識が分かり施策に反映され、いき目のいく啓蒙ができるのではないかと思った。</p>

(2) 令和3年度 of 取組状況についてのご意見

委員	<p>啓発活動の内容と活動方法が多岐にわたり、多くの市民が参加しやすい形で提供している点はとても良い。</p> <p>特に「性的マイノリティ」、「デートDV」が男女共同参画推進のテーマとして取り上げられるなど、内容の斬新さを感じた。今後もこのような社会の多様性を敏感にとらえ、それに応じる啓発活動をもっと広範囲で行ってほしいと思う。</p>
委員	<p>令和2年度と比較すると、デートDV防止講座の参加者数が大幅に減少しているのが気になる。今後もコロナの影響が続くようなら、リモート開催などの対策を検討してはどうだろうか。学校側はリモート開催の受け入れ態勢が整っているはずなので、市役所側の対応次第ではないかと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大のため、講座やセミナー等の開催が難しかったかと思うが、令和4年度も意識・人づくりのために充実した講演会の実施や育成活動をしてほしい。・令和3年度10月の男女共同参画推進月間ポスターコンテストで、太華中生徒の作品が山口県で最優秀賞に選ばれ、ポスターとなっている。積極的に活用してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none">・コロナ対応が必要となる中で、できることを現実的に取り組んでおられる。・周知、啓発という、地道であるが大切な事業を、ていねいに進められている。
委員	<p>アンケート結果の男女の割合が掲載されていると、より傾向がつかみやすいのではと思う。</p>
委員	<p>令和2年度に比べ、女性に対する暴力をなくす運動が縮小されたような気がする。減少傾向にあるのであれば問題ないと思う。気になるところは、男女共同参画を唱え、実施していくにつれ、男性に対する暴力が増えているのでは、と感じることだ。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で厳しい状況ではあるが、周知・啓発の取組をいかに充実させていくか。・高校生以上への取組が多いので、保育園・幼稚園・小学校・中学校での取組をさらに進めていく必要がある。

委員	<p>・令和2年度に続いてのコロナ禍の中、様々な取組が行われた。</p> <p>・高校での講座もあったが、大切なことだと思う。もっと多くの生徒が参加できればよいのではないか。</p> <p>小学校でも人権セミナー・人権の学びの機会を提供していただいているが、親子で学べる場も大切だと思う。</p>
委員	<p>令和3年度の講演会等には、コロナの影響で参加することができずたいへん残念だった。参加者数をたぶん制限せざるを得なかった状況が数字からもうかがえる。リモート受講等も必要に応じてできるようなので、環境が整っている場合はありがたいものと思う。</p> <p>審議会に参加するまでは、デートDVという単語についても、その他男女共同参画社会・ジェンダーの多様性についても深く考える機会さえ持っていなかったように思う。</p> <p>今後も時間の許す限り講演会等に参加して自己研鑽に努めていきたい。</p>
委員	<p>令和3年度もコロナ禍での制約が続き、活動が難しかった中、頑張っておられたと思う。</p> <p>(1) 講演会等の開催も施設の利用中止期間等があった中で、良く実行されたと思う。</p> <p>(2) 市民組織の育成及び市民活動の支援については継続した課題として着実に取り組んでこられた。</p> <p>(3) 周知啓発に関しては、広く市民に周知するにはどうしたら良いかが課題。</p>
委員	<p>コロナ禍という特殊な状況の中での取組は大変だったと思う。</p> <p>地域リーダーの育成支援において、もう少し幅を広げる方法があればと思う。</p>
委員	<p>男女共同参画セミナーでは、一般の方対象では難しいかもしれないが、リモート受講された方もあり、コロナ禍で参加を迷われる方や移動に時間がかかる方や小さい子供さんがいて外出が難しい方などには、よい取組だと思った。</p>
委員	<p>デートDV防止講座は、オンライン活用して高校だけでなく、中学校等でも受講できるようにするべき。もっと多くの男女問わず。そして早い段階で知っておくべきことかと思う。</p>

委員	<p>講演会等の参加者が少ないと感じた。今までも多くの講演会等参画してきたが年配の方々の参加が目立ち、若い方の姿はほとんど見掛けなかった。PTAでも保護者の参加が少ないので地域の方々に声掛けしたが、年配者の参加が主であった。学校や職場での講演会等、短時間で参加者が多く参画できる、心に残る講演会等であつたらいいと感じた。</p>
----	--

(3) 今後の男女共同参画推進施策についてのご意見

委員	<p>今後はWithコロナでの男女共同参画推進を想定し、遠隔（対面形式ではない）でも効果的な推進活動のあり方について検討する必要があると思う。また、一般市民向けの啓発活動はもとより、特定のセグメントにおける多様な支援策の可能性も視野に、より充実した推進事業を立てていけたらいいと思う。</p>
委員	<p>長期的な施策という点では、中学校・高校・高専・大学などで男女共同参画の必要性を生徒・学生に対して根気よく講演活動などをしていく必要があるのではないだろうか。デートDV講座だけでは生徒・学生に対する啓蒙活動が足りない気がする。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染症の収束はまだみえてこず、引き続き事業の実施が難しい状況もあるかと思うが、ここで取組を停滞させるのではなく、「今だからこそできること」をみつけ、工夫しながら人々の意識・人づくりや社会の仕組みづくりを進めてほしい。</p>
委員	<p>本計画期間の令和6年度まで、今後について不透明な部分はあるが、アフターコロナ、ウィズコロナを念頭に置いた計画の微修正、取組の具体的実施方法の変更等、検討も必要になるのでは。</p>
委員	<p>今後の男女共同参画の啓発のため、講座やセミナー等積極的な開催を望みます。特に、学校教育の中で、ジェンダーや性的マイノリティに関わる講座や授業を積極的に実施することは勿論、地元で男女共同参画推進を実施している企業の見学、仕事体験等の実地での体験を行うことで、より意識を変えていくことができるのではないだろうか。</p>
委員	<p>コロナ禍、セミナー等の開催が難しかったり、参加者がふるわなかったりと困難をきわめられたと思うが、この状況をふまえて新しい啓発方法を考えていけたら良いと思う。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営者等への啓発がさらに必要。（年配の方が多いため、固定観念が強く残っている人も多いためと考える。） ・幼少期から、発達段階に応じた取組（身近なこと、歴史的背景、法律、市・県・国や世界の現状と考え方・取組など）を計画的・継続的に進める必要がある。 ・特に子育て世代に対する公共の福祉の充実と周知が必要。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こども、家族だけでなく、また市役所だけでなく、地元企業・団体にも幅広い周知とご協力をいただいたり、関わりを積極的にお願ひしてもよいのではないだろうか。 ・数値目標が全てではありませんが、積極的な関わりをされておられる企業・団体を表彰してみるのはどうだろうか。（もう実施しておられるかもしれないが。）
委員	<p>あらゆる分野での政策方針決定への女性の参画のアンケートで、平成30年以前とその後の参加意欲はある程度是正されたから低迷傾向にあるように感じられるが、職場での不平等が一番改革されていないように思われる。この改善されていない部分を多く取り入れる企画を望む。</p>
委員	<p>人は自分に自信がない時、他人のせいにしてたり攻撃的になったり、多数派の波に身を置き、自身を守ろうとすることがある。私自身にもそういう弱い心があることは認めざるを得ない。「男らしさ」、「女らしさ」という固定観念で個性や特性を失うことなく、お互いを認め合う社会でありたい。誰もが「自分らしさ」を大切に柔軟な心で理解を深めることが、心地よい社会生活を作ることにつながると思う。</p>
委員	<p>市民への周知の方法の1つとして各自治会長さんに協力を求める（理解してもらう）ことを考えたらどうだろうか。</p> <p>自治会によっては1年毎に交代するので、協力を得るのが難しいかもしれないが、自治会単位で情報共有することで市民に広く伝搬できると考える。（自治会長に配布すれば、会員には回覧板で回覧する。）</p>
委員	<p>保育園、幼稚園の男性保育士の割合は増えているだろうか。（介護施設の介護士は男性が増えているように見受けられる。）</p>

委員	<p>今後の施策について、他の担当課との施策のバランスも大事だと思われるので、積極的に推進していかなければならないことと維持で進めていくことを精査し、進めていければよいのでは、と思う。</p>
委員	<p>民間では、製造業の交替勤務に女性が就業する等、進んできているので、そういった当事者の悩みや意見を聞く機会があると良いと思う。</p> <p>また、所管が違うのかもしれないが、県内では宇部市で実施している同性パートナーシップ宣誓制度についても、導入を検討してほしい。やはり子供たちへの啓発も大切と思うので、小学生対象の講座等もあると良いかもしれない。</p>
委員	<p>各団体の代表者が委員になっているがその方々がどの様に学習しておられるのか。またその団体組織を構成している方々に、どのような形でこの男女共同参画の推進施策や意識を変えていくための学習会などをお知らせしておられるのか。関係者が参加、参画しやすい、具体的に分かり易い啓発であればよいと考える。</p>

(4) その他ご意見

委員	<p>みんなが「笑顔」になれる男女共同参画社会の実現は、「地域」から変革することが求められる。「条例」や「法律」という法令順守の基本から、「多様性による価値の創造」という理解を浸透すると男女共同参画も進みやすくなるだろうと思う。</p>
委員	<p>書面開催では他の委員と意見交換ができないため、今後もコロナの影響が続くようならリモート開催も検討してほしい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子「第2次周南市男女共同参画基本計画 すまいるプラン周南～後期～」の1ページ目市長あいさつの1行目は、男女共同参画社会基本法第2条を受け、男女が、社会の対等な・・・とした方がよいのではないか。 ・委員名簿を見ると、委員の構成も男女のバランスを考慮されていると思うが、小中高専が男性ばかりとなっており、校長会等で配慮できるとよいのではないか。

委員	<p>学校」とは、子どもたちにとって、「社会」を学ぶ場でもある。その学校が、「一人ひとりの人権が尊重され、性別に関わりなく自らの個性と能力を発揮しながら、いきいきと充実した生活を送ることができるような社会」であるように、また、学校教育を終えた子どもが、「男女共同参画社会を担うひとり」となることを願う。</p>
委員	<p>講座やセミナーについて、市広報以外で目に付く機会が少ないので、別媒体で広報を行い、より多くの人の目につくようにしてみてもはどうだろうか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・常に「基本的人権の尊重」を基盤に置いた考え方と取組が重要と考える。 ・高齢者の固定概念をいかに崩していくか。 ・「昔から～だった」とか習わしでなく、科学的根拠に基づいた理解と実践が大切。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに、父親が積極的にかかわる文化を、周南市でつくりあげていけるような施策や支援を、もっと前面に出していただけるとよい。 ・育友会の活動をしていると、男性の関わりが、まだまだという気がしますし、専業主婦、パートのお母さんが多数という前提の活動形態になっているような気もする。 <p>市が関わることではないのかもしれないが、スポーツ少年団、クラブ活動なども、根っこは同じ部分もあるのでは。</p> <p>よい解決策はすぐには思い浮かばないが、一緒に考えていけるといふ土壌をつくりあげていけるような発信ができないか考える。</p>
委員	<p>男女共同参画においては、日本の長い歴史の中での男性、女性に対する固定観念により、一朝一夕にはかわるとは思えないが、時間はかかっても次代に引き継ぎたいと思う。</p>
委員	<p>高齢者人口が中山間地域では特に増加しており、生産年齢人口が減少している中で、私が属している女性団体でも今後どのように維持してしていくかが直近の課題となっている。維持から形を変えて無理なくできる体制が提案、実行していけるとよいのだが…と思っている。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員の産休、育休期間は、昇任に必要な期間に算定されるようになっているのか、除外されると取得した人が昇任が遅れるといったことがあるのか、その辺りを教えてほしい。 ・女性の管理職1割というのは、他の市町村と比較して多いのか、少ないのか、市長が女性なのに1割で良いものだろうか。 ・他市で女性市議が育休が取得できず、私費でベビーシッターを雇って休憩中に授乳して…というようなことがあったと思うが、周南市は市議会議員でも育休、産休は取得できるのか、教えてほしい。
委員	<p>以前イギリスの方や外国の方との男女共同参画についての学習会に参加した。その時歴史は= h i s s t o r y (彼の物語)であり男の人の事を中心に作られたものであると仰った。それと日本とヨーロッパ諸国とは市民社会の考え方、土台が違うと感じた。「人権」とは人間社会の土台であるが、特に「男女共同参画」を人権教育の一つとして取り上げ推進していき、何時も「人権」の土台に立って、「心の問題」を基本に)進めていかねばならないと思う。</p>

(5) まとめ

会 長

委員の皆様にはたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。
今回の審議会の意見をまとめると、

令和2年度施策の推進については、全体的目標値に近づいていること、報告書が(読みやすさの工夫など)改善されたこと、コロナ禍の中でも積極的に活動し続けていることなどは評価できる。一方、活動の対象、範囲を広げる必要があり、また、連続性(啓発や養成サポートを行った後のフォローなど)を意識する活動の展開も必要であることを課題として残されている。

令和3年の取組状況については、LGBTQやデートDVなど新しい社会課題に対応した多くの啓発・支援活動を実施したこと、コロナ制約の中でも市民組織の育成と市民活動の支援を継続できたことは大切である。しかし、セミナーなどの参加者の減少、高齢化現象も見られており、今後の取組においては、オンラインの活用や周知の工夫が必要ということ認識すべきである。

今後の施策推進については、引き続き積極的な男女共同参画の啓発・支援が重要であり、そのために各教育機関、自治体、企業との協働が必要である。具体的に、保育園の園児から大学生までへの取組、企業の経営者、女性従業員の声を聴く機会、自治会長と連携した周知活動などが挙げられた。

また、コロナ感染症を念頭に置いた計画の微修正、取り組み方法の変更などの検討も必要ではないかといった問題提起がなされた。

以上を踏まえ、市には、今後の男女共同参画施策の推進に生かしていただくよう以下のとおり審議会の意見とします。

男女共同参画の実現は人権尊重の問題のみならず、地域の持続的成長においても重要な課題である。日本は先進国のなかで女性の社会進出が最も低いレベルにあり、周南市も女性が各領域で十分に活躍できる環境づくりが求められている。よって、以下の三点について、今後取り組んでいただきたい。

1. 雰囲気づくりに力を入れる

子育てに父親が積極的に関わる文化を周南市で作上げてほしい。そのため、男女共同参画に関する啓発活動を引き続き取り組んでいただき、仕事と生活の調和が図れるワーク・ライフ・バランスの推進に関連機関を巻き込んで取り組まれない。

2. 連携体制の構築

施策の推進は、行政がリードし、産学民とも積極的に関わるような連携体制を検討されたい。特に周南市の地域経済構造から、産業界における男女共同参画が進むとよい大きなインパクトが得られる。

3. PRの強化

周南市は地道に活動を進められているが、「〇〇をやりました」の報告に留まるのではなく、活動の意義と成果のPRを工夫して周知すれば、人々のよい啓発になり、他組織においても「やってみよう」という波及効果に繋げていけるだろう。そのためには上記の2. 連携体制の構築が望ましい。